

北海道・東北 保健・体育ネットワーク研究会 「北海道どさん子ラウンド」報告

東京都立新宿山吹高等学校 杉山 正明

平成25年5月24日(金)北海道教育大学札幌駅前サテライトにて、北海道・東北 保健・体育ネットワーク研究会「北海道どさん子ラウンド」が北海道、山形、岩手、東京のさまざまな立場の先生方の参加を得て開催されました。一参加者として報告させていただきます。

今回、「北海道・東北 保健・体育ネットワーク研究会」に参加された先生方は、大学で保健体育の教職課程を担当されている先生や教育委員会の指導主事の先生、中学校・高等学校の先生、大学院生の方々でした。いつもながら、この研究会はそのネーミングにありますように、より良い保健体育の授業づくりを志す先生方がそれぞれの立場からの知見を出し合い、それをそれぞれの現場にフィードバックするということができる研究会であると改めて認識しました。

研究会では、はじめに北海道教育大学教授の古川善夫先生より、教師の力量形成の必要性について、「体づくり運動」の意図を理解して授業を本当にしているのだろうか、教師は授業にどう関わるのが大切なのかというお話をいただきました。

続いて、今回のメインテーマである、「体づくり運動のタブレットを活用した授業実践」についての報告と意見交換が行われました。「体づくり運動のタブレットを活用した授業」は、鹿屋体育大学教授の佐藤豊先生が考案し、現在開発中の「体づくり運動のアプリ」をタブレットにインストールして、これを生徒全員に持たせて授業展開していくというものです。

今回は、北海道教育大学教授の古川善夫先生の指導のもと、北海道教育大学附属旭川中学校の佐藤徳嗣先生が授業実践されての成果と課題について報告していただきました。また、佐藤豊先生からも学習指導略案やアプリ画面を提示していただきました。

実際の授業で、ログインできない生徒やWi-Fiの問題、授業進度を統一するための大画面を表示しながら操作させる必要性などの報告がありました。内容については、すべての生徒に等しく「体づくり運動」の内容を指導でき、しかも、今後スマホにダウンロードできれば、いつでも、どこでも、誰とでも「体づくり運動」をすることができる可能性を持ったものであると感じました。このような授業を通して、「体力を高める能力を身につけさせる」ためのプロデュース能力が高まるのではないかと感じました。

その後、佐藤豊先生から、「21世紀型学力」を中心としたお話しをしていただき、とても有意義な研究会でした。



北海道教育大学教授 古川善夫先生



鹿屋体育大学教授 佐藤豊先生